

**令和6年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象:3~5歳児)**

陽だまの丘保育園

テーマ

自然

設定理由

普段から身近な自然を通して、自分なりに工夫したり考えたりして行動に移す姿があったため、森の中の大きな樹木に触れたり川で遊んだり、五感を最大限に働かせることで、より自然を認識し環境意識にもつながると考えたため。

活動のねらい

人と自然の繋がりを知り、身近にある自然を大切に扱おうとする心を育む。

対象クラス

幼児クラス61名（内訳：3歳児/20名 4歳児/20名 5歳児/21名）

スケジュール

令和6年4月～令和7年3月

お泊まりキャンプ

マス掴み



流れがゆっくりな
ところと少し速い
ところがありそう！



ご飯を炊くのって
時間がかかるんだね



ご飯を炊く



- ・ルールを守りながら、友だちと協力して火を絶やさないように薪をくべてご飯を炊いたり、マスを捕まえたりして、日常では味わえない経験をする。
- ・自然環境で過ごすには自分たちで工夫して行うことの必要性や、簡単にはご飯が出来ないこと、薪を使うことで美味しいご飯が炊けることを知り、木の大切さを感じている。
- ・川遊びでは水の冷たさや川の流れる音、自然の匂いなど、五感を使って存分に体験することで、心地良さを感じている。

環境のために準備した
素材や道具

宿泊費、移動バス、ライフジャケット

子どもたちの育ち

- ・友だちと協力して取り組む、規律を守る大切さを知った。
- ・自然の恵みをいただいて食べることで、感謝の気持ちが生まれている。
- ・自然を大切にしようという、豊かな心が育まれている。

箸作り



スプーン作り



- 木のいのちの循環、生活とのつながりを知ってもらいたいと、木育ワークショップを行う。
- 講師の話を聴き、「キャンプでご飯を作ったときも、木を使ったよ」と話し、渡された箸を大切に扱おうとする姿が見られる。
- 紙やすりで木を削り、削ったときの匂いや肌への感触を感じながら、箸やスプーンを作っている。

環境のために準備した
素材や道具

木育ワークショップ、紙やすり

子どもたちの育ち

- 森の木から毎日使う箸を作り、作る過程の大変さを知り、日々メンテナンスを行うことで、物への愛着や、大切にできる心が育まれている。
- 森の木が薪や箸にも使われていることを知り、生活とのつながり、循環を感じている。

木曾おもちゃ美術館



五感で感じる

自然（どんぐり）
を大切にする木の玩具の
面白さを味わう

- 子どもが木を身近に感じ、日々触れて遊ぶ中で、子どもたちをサポートする職員自身もより身近に感じ、感性を磨く必要があると考え、研修で木曾へ行く。自然に囲まれ、グループごとに森を散策しながら自然物を集める。
- 集めた自然物と様々な素材を組み合わせ、オブジェを制作する。
- 木曾のおもちゃ美術館で、木の玩具に存分に触れ、年齢毎にどのような遊び方ができるか考え、木の玩具を選ぶ。

環境のために準備した
素材や道具

木曾おもちゃ美術館、自然物、オブジェの材料

子どもたちの育ち

- 研修後、職員自身の環境への意識が高まり、園庭で育てているどんぐりの水やりを積極的に行う姿を見て、子どもも同じように世話をし、慈愛の心が育っている。
- 室内の玩具を見直すことで、より子どもが木の玩具で遊び込む姿が見られ、感性や想像力の広がりにつながっている。
- 身近なところに木を取り入れることで、人と木との関わりを考える機会になっている。

全体の振り返り

・キャンプでは大自然を心と身体で感じ過ごす中で、自然に触れ、自分たちで考え行動する姿や、協力して取り組もうとする姿が見られ、生き抜く力の土台になっているように感じた。自園の園庭は、自然物や虫などの生き物を観察できるような環境が十分には整っていないため、今後、園庭の環境を見直し、五感をフルに働かせて感性豊かに過ごせるようにしていきたい。また、豊かな環境を用意するだけでなく、職員自身が自然に親しみ感性を磨いたり、環境や循環の意識を高めることで、その環境の中で自然体験を展開できるような関わりや遊びの提案を行い、体験からの学びを大切に育んでいきたい。

